

## 中林たかしの一般質問

### コロナ感染症対応について

#### 問

コロナによる市立病院への経営上の影響はどれくらいか。

#### 答（病院事業副管理者）

昨年比で入院が1億1千3百万円、外来が3千7百万円の減収で大きな影響がある。感染症専用病棟は一般患者を受け入れないためマイナスとなるが、県からの補助で補てんする。今後はコロナの状況次第で、どのような影響が出るか見通せない。

#### 問

本市のコロナ感染経路は何だったか。

#### 答（健康福祉部長）

県がコロナ関連の公表を行っており、市としては控える。感染経路等については県の判断で行われ、他市の事例と同様な公表内容とはならないことを理解願いたい。

#### 問

コロナ対策でどれくらい支出したか。

#### 答（総務部長）

合計で約46億33百万円。ほとんどは国からの交付金で賄われ、市の実質的な負担は約1億1千万円程度となる。

#### 問

コロナで中小企業は困っている。国・県との連携、国・県制度で十分でないところへの支援が必要と考えるがどう進めるか。

#### 答（産業観光部長）

市内経済の状況や、国・県の施策を見ながら必要な対策を検討していく。

#### 問

プレミアム飲食券やぐるっと雲南スタンプラリーの成果を見ながら検討するということであるが、事業者は必至で商売に取り組んでいる。そんな悠長なことを言っている時ではない。積極的な対策が必要だ。県は「新型コロナの予防に取り組むお店」

事業を始めた。こういう店舗を積極的に利用する、こういう姿勢や行動が大事だ。



新型コロナ予防に取り組むお店のステッカー

#### 答（産業観光部長）

市としてもこの制度を推奨する。これを後押しするような対策を取っていく考えだ。市内一丸となってこのような流れをつくっていくきたい。

### 清嵐荘の運営について

#### 問

間もなくオープン一周年を迎える清嵐荘の経営状況について伺う。

#### 答（産業観光部長）

オープン以降7月までの状況は、想定者数との比較で宿泊が73%、日帰り宴会が60%、入浴が59%となっている。4月には非常事態宣言による休業要請もあり、経営状況はかなり厳しい。

#### 問

指定管理の期間と今後の支援策について伺う。また、あれだけ大きく立派な施設を無駄にしてはならない。今後の対応方針について伺う。

#### 答（産業観光部長）

期間は令和元年11月から令和6年3月末までの4年5カ月だ。指定管理者は国からの助成金や金融機関からの借り入れにより乗り切るよう努力中。4月の緊急事態宣言を受けて行った休業要請による減収分は市として支援を検討している。現在、指定管理の変更については考えていない。

### 地域要望への対応について

#### 問

自主組織から多くの地域要望が出されているが、どう応えるか。

#### 答（政策企画部長）

地域要望は多数受け付けているが、予算のこともあり緊急性の高いものから順次対応している。地域要望に応えていくためにも市が全力を尽くすのは当然だが、地域と行政の協働も大切と考える。

#### 問

7年前、加茂交流センターから地域課題の整備要望を提出している。37項目あるが大半は実現に至っていない。住民からは早く何とかしてもらいたい、との声が根強い。自主組織は市役所の下請機関になり下がっている、との声も多く聞く。自主組織とは何ぞや？

#### 答（市長）

自分たちの地域は自分たちでよくしていこうという意欲のある集団が自主組織だ。出された要望が多ければ行政としては優先度の高いものから順次取り扱う。要望にあたっては、行政と協議をして優先度の高いものから提出してもらいたい。

#### 問

市長の自主組織への想いは理解する。自主組織はまだ進化の途上ではないか。

#### 答（市長）

地方制度調査会の答申に公共私のある方が示されており、その要となる組織が地域運営組織だ。その地域運営組織が雲南市では地域自主組織になる。こうした組織、活動は国も大事だと言っており、雲南市も追い求めていかなければならない。

### 木次線対策について

#### 問

トロッコ列車の後継に進展が見えない。

#### 答（市長）

県もトロッコ列車の存続に意欲的に取り組んでいる。令和4年度以降も運行されるよう努力していく。

#### 問

再来年度以降のトロッコ列車についてJRは明言していない。存続のポイントは、①地域住民が日常必要としているという実績を示すこと  
②輸送量を確保するため地域外からの客を増やすこと  
そのためにトロッコ列車の運行継続は不可欠だ。

#### 答（教育長）

遠足や郊外活動、部活の練習試合で14名が利用している。今後も事情が許す限り利用していきたい。

#### 問

木次線存続のため、二つの提案がある。

①JRの株式を保有する

②行政がトロッコ列車を保有し、JRに運行委託する  
所見を伺う。

#### 答（市長）

多少の株式を保有しても権利行使力は弱い。むしろ、県との連携体制の中で協議を進めていきたい。トロッコ列車に関してはJRは代車がない、と一貫した返答だ。提言をしっかりと受け止め今後に生かす。

#### 結

株式保有は議決権行使が目的ではなく、JRとの結びつきを具現化するもの。トロッコ列車の後継車両は中古の改造ではなく、他と差別化するため新造車両で対応すべき。県と連携を取って進めてもらいたい。

平成28年から「瑞風」をお届けしてきました。これまでのご愛読、誠にありがとうございます。ごさいます。お陰様で定例会ごとの4年間で16号を数えました。今後も「瑞風」を通して議会情報をお伝えできるよう引き続き頑張って参ります。（たかし）